

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 留学生を受け入れ、国際的視野をもつ人材を育成する。	→留学生の受け入れ人数	C	C	C	B	B
2. 教育研究の国際交流を緊密化する。	→海外からの招聘教員数及び海外派遣数。	B	B	B	B	B
3. 科学技術英語教育を推進する。	→科学技術英語の内容再編と科学技術英語フォーラムの開催。	B	B	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 理工学部との国際交流協定の締結機関数および国数を順次増やし(2014年5月1日現在で5機関4か国と締結)、2011年からは外国人留学生海外推薦入試も実施してきた。また、本学からの留学を容易にするべく、留学時期を夏休みおよび春休みの両方で柔軟に設定した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外国人留学生は2009年度に正規生3名であったところから、12名(2014年5月1日現在)まで増加した。また、同期間で海外への派遣学生数は、短期は5名から22名に増加した。この点で、上記の取り組みは着実に成果を上げることができたと言える。ただし、理工学部のカリキュラム上長期は1名を超えなかった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後もこれまでの取り組みを踏襲し、国外の新たな機関と国際交流協定の締結や、留学時期を柔軟に設定する方策などを検討し、また広報につとめることによって、学生の受け入れ数および派遣数のさらなる増加を図る。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 理工学部として、各学科に対し海外からの研究者の受け入れ及び教員の海外への派遣を積極的に行うよう促し、海外客員 教員招聘制度や学院長期留学、ランパス留学基金などの制度について情報の収集と提供を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		2013年度の外国人教員・研究員の受け入れ数は、客員教員6名、客員研究員1名、受託研究員3名、博士研究員7名であ り、全体的に例年以上の水準となった。また、海外への派遣教員数は国際学会等での研究発表89件を含め延べ115件と、 ほぼ例年並みの水準を維持している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		今後、さらに教育研究の国際交流の緊密化・活発化を図り、外国人教員・研究員の受け入れ数、海外への派遣教員数を増 加させるよう各学科に促すほか、利用可能な制度や基金についてのさらなる情報収集と提供を行っていく。	☆
		その他	
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた 科学技術英語教育のための授業科目である「科学技術英語A・B」および「科学技術英語実習」の充実に取り組んできた。特 に、それらの授業において有効に活用できる独自教材の作成と、それを効果的に活用できる授業形態の検討を継続的に 行ってきた。また関学英語フォーラムを開催した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		科学技術分野等の英語表現の適切な利用をサポートできるよう、各専門分野の文献での用例に基づいたコーパスを作成し た。また、その効果的な活用を図ったクラス編成と授業内容の改編が継続的に行っており、「科学技術英語A」は希望者全員 が受講できるようになった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		上記の取り組みにより、本研究の目標はこれまでのところほぼ達成されているが、2015年度以降も新学科開設や科学技術 の進展にあわせ、教材の改訂やクラス編成・授業内容の改編を継続していく。	☆
		その他	
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【理工学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	1	1	1	2	3	5	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	1	1	1	2	3	4	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	3	4	3	5	9	12	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.2	0.2	0.2	0.2	0.5	0.6	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	1	0	0	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	5	6	6	8	22	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.3	0.3	0.3	0.4	1.1	—			
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	1	1	1	1	1	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	4	6	3	3	7	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	67	135	103	134	115	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	10.3	9.9	10.0	12.2	12.0	9.5	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

※指標7「国連ボランティア(UNV)の参加者数」は2013年度から国際社会貢献活動参加者を含む。また国連ボランティアは2013年度より国連ユースボランティアとなった。